

チーペの友誌

▲本欄には有益趣味ある文藝若くは輿論を喚起すべき投稿を限り起すべし

所感文

○此の氣を以て

○僕は水戸歩兵第二聯隊を昨年十一月満期により除隊後直ちに、鋤鋤を田園に奮ふ農家の一青年である。

○本年一月より本誌に目を離さず見讀して居るが、愛讀者諸君の奇抜な筆鋒には僕も恐れ參つて、今まで投書しようかと云ふ頭が更に無かつたのである。

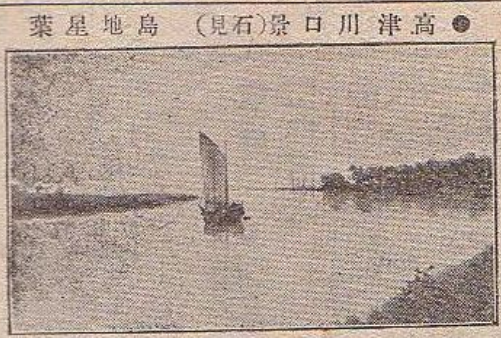
○而し恐縮してばかり居ては女々しいことだ矢張、一人前の愛讀者であるとな奮發して、甲部へ投稿したら、やつと佳作者十人の處へ自分の姓名が見えた。

○僕は一等を取りたいと思ふ精神は山々なれど自分の下手な文を以つて等に入れて貰ひ度いと云ふ邪心は無い

○記者先生の選擇の結果、没書籠の厄介になつたとて先生を毛頭も恨まず、只僕は入選さるる迄文を練るのみである。

行五欄

●田を植える人苗を取る人、まんがを押し人田をならす人苗を運ぶ子供。あちらでもこちらでも懸命に働いて居る。今將に、農忙の時期(園部民男)



高津川口(見石)島地星葉

○小寒村に至る迄

夏?夏? 我山間の村落にも早蟬が初音で以て初夏の來たるを告げた。あゝ愛する家庭の花よ... 春來たれば櫻花の蔭に、夏來たれば綠樹の蔭に、永遠に散るを知らず益々其美香を全國小寒村に到る迄發揮し給へよ。(丹後河邊村 熱田美千草生)

建議

一、俳壇擴張の件案
二、誌友頁改良の件案
諸君作ら要項を擧げて當局の注意を仰みます。本日は快

●朝寢して夕寢するまで盡瘁して時々起きて居眠をする。全く此の歌の通りに成り易いが。諸君?奮つて御投稿を? (茨城眞壁郡谷貝村小島榮吉)

●世人の懐中温し。冗費省略。四月十七日徵兵検査施行小。藝術を以て道樂とする者は

●吾人を倒さんとする強敵の。口は禍福の門と云ふ世の不倫不義不法あらゆる惡徳行為も此の口を以て掩蔽し善飾して世を瞞着せんとす蓋し口は重寶の詞技に存す(越後午)

質問

●本誌編輯者とホシのクスリ

▲係り曰、宿題として考へ置くべし。

▲係り曰、どういふ點が矛盾だか短文では御意が解し兼ねますが若し本誌の社長星一氏が星製藥株式會社の經營者たるが故に本誌はホシのクスリを吹嘘すべきものであるといふ推論に依るものなら、貴方は星社長の意志と本社編輯者の態度とを知らないので。社長は本誌に對してクスリの吹嘘なんかする必要はないとまで注意して下さい。編輯者は又どんな事があつても筆を任げるやうなことはしない

▲前金切の時は前金切の印を押し若し送金なき時は發送を中止する郵券は一割増

▲半年一回 六十圓
▲一年一回 一百圓
▲二年一回 二百圓

▲前金切の時は前金切の印を押し若し送金なき時は發送を中止する郵券は一割増

▲半年一回 六十圓
▲一年一回 一百圓
▲二年一回 二百圓

▲半年一回 六十圓
▲一年一回 一百圓
▲二年一回 二百圓

商戰漫語(三)

てふ消極的方面

てふ消極的方面

▲半年一回 六十圓
▲一年一回 一百圓
▲二年一回 二百圓

▲半年一回 六十圓
▲一年一回 一百圓
▲二年一回 二百圓

▲半年一回 六十圓
▲一年一回 一百圓
▲二年一回 二百圓

▲半年一回 六十圓
▲一年一回 一百圓
▲二年一回 二百圓

▲半年一回 六十圓
▲一年一回 一百圓
▲二年一回 二百圓